



フィリピンの子供たちに不要になったランドセルを一。中津市など県内で、慈善活動の輪が広がっています。

中津の細川さん、寄付募りフィリピンへ

海渡るランドセル

【中津】あなたの小学生時代の思い出が詰まったランドセルが、異国の子供たちの宝物に。『フィリピンへ支援物資を送る会（ASSP）』（愛知県豊橋市）の中津支部長を務める細川慈照さん（61）が中津市北門通で始めた慈善活動の輪が県内で静かに広がっている。



ASSP中津支部長の細川さんを囲む寄付されたランドセル。中津市北門通の永照寺

① フィリピンでランドセルが支援物資として喜ばれる理由は何でしょう？

.....

② 細川さんがフィリピンへ支援物資を送る活動に参加したきっかけは？

.....

1月には車いす18台、2月には古着500着を現地に送った。卒業、入学シーズンに合わせて、4月はランドセルの寄付を募っている。フィリピンにランドセルを使う文化はない。ただ、丈夫で機能性が高いことから喜ばれる物資の一つだという。10日には真新しい制服に身を包んだ女子中学生らが、思い出のランドセルを持ち、窓口となっている市社会福祉協議会を訪れた。同日には中津中で入学式を終えたばかりという徳永舞香さん（12）と小楠小卒（12）は

中学1年生「寂しいけど役立てて」

ランドセルの寄付に訪れた城北中1年の浜田華帆さん。中津市沖代町の市教育福祉センター



「いつも近くにあったものがなくなるので寂しい。でも大切にしてきた物が困っている人の役に立つなら喜んで譲ります」と職員に手渡した。海好きの細川さんは2013年、ダイビングなどを楽しむためにフィリピンを訪れた。現地では経済成長に伴いビルが林立。一方で、

貧困層が生活するスラム街が増えた。教育は無償化されているものの、義務ではないため、多くの子供が教育を受けないまま成長するという。日本にはない悲惨な現実を目の当たりにした。「美しい環境と現地の人の温かい人柄に引かれた。彼らのためにできることをしたい。何かできることはないか」と思いを行動に移した。

16日までに、県内各地から116個のランドセルや古着が集まった。「想像を上回る数の寄付をいただき、本当にありがたい」と感謝の言葉を口にした。集まった物資は5月以降子供たちの元へ届け。今後は支援者に給はがきなどで活動を報告する予定。同協議会では30日まで寄付を受け付けている。問い合わせは同協議会（☎0979・23・2095）。

（内田杏実）

③ 4月16日までに県内各地から集まったランドセルの数は？

④ あなたならフィリピンの子どもたちに何を送ってあげますか？考えてみよう。

.....